

塾生の皆様へ

受験勉強に不可欠なのは、高い志に基づく、受験生としての自覚。

夏期講習会までに受験生としての自覚を持つよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 受験勉強に不可欠なことは何ですか。

A : 「受験生としての自覚」を持って、受験勉強をすることです。

Q 2 : なぜ「受験生としての自覚」が、受験勉強には不可欠なのですか。

- A : (1) どのような試験を受ける場合にも、受験勉強には、試験の日までに「修了」、つまり、十分に理解し、身に着け定着させ、応用力を身に着けなければならない出題教科があります。
- (2) その出題教科の勉強をすべて修了させるには、かなりの時間と集中力が求められます。
- (3) また、どのような試験も、ある一定レベルまでそのような力が身に着いていなければ、合格することはかないません。
- (4) 合格者の定員が決まっていて、受験希望者が定員を上回っている場合には、競争に勝たねばなりませんので、あやふやな理解・定着・応用では合格は困難を極めます。
- (5) たとえ受験生が定員を上回っていなくても、ある一定のレベルに達していなければ、入学後の勉強についていけないため不合格になる学校が大半です。
- (6) このような受験勉強をするには、膨大な学習時間と集中力を必要とします。ただらだと気分が乗っている時だけ机に向かうのでは、試験当日までに十分な力が身に着きません。
- (7) 本番の試験を受ける前に、模擬試験を受験し、合格可能性を判定して、その学校を受験するかどうかを決めることが多いので、模擬試験でも合格できる偏差値を確保しなければなりません。
- (8) 多くの受験生は夏休みの最後にある模擬試験を参考にしますので、この夏休みまでに受験生としての自覚をしっかりと持ち、1学期の定期試験が終了して部活動が一段落したら、1日も早く「本格的な受験勉強」をスタートすることが求められます。
- (9) 具体的にいえば、「夏期講習会までには受験生としての自覚」を持ち、「夏期講習会から本格的な受験勉強」をスタート、夏休み最後の模擬試験で、第一希望校に合格できるだけの偏差値確保を目指すことをお勧めします。

Q 3 : 「本格的な受験勉強」とは何ですか。できるだけ具体的にお話してください。

A : (1) 定期試験の直前のような熱心さでの勉強を、入学試験当日、試験時間直前まで行うことです。

(2) 部活動でたとえるなら、地区大会、県大会、都大会、関東大会、全国大会の直前のような練習、勉強を、入試直前まで行うことです。

(3) 「受験勉強は部活動だ」と思い、練習試合、地区大会、県大会、都大会、関東大会、全国大会に出場し、入賞を果たす練習と同じ熱心さで受験勉強に取り組むことです。

(4) ① 「朝から晩まで一日中」

② 「四六時中」

③ 「眠っている時間以外はずっと」

このくらいのつもりで行うのが、「本格的な受験勉強」です。

(5) 多くの受験生が、受験勉強の大切さに気が付き、「本格的な受験勉強」をスタートするのは入学試験の1～2か月前ですので、それを半年前の「夏期講習会」スタートにしたかどうかというのが、開倫塾の塾長としてのメッセージです。

(6) この「本格的な受験勉強」を推し進める強力なターボエンジンが、「受験生としての自覚」です。自分は、来春、第一希望校に合格を果たす受験生であるという「受験生としての自覚なくして、受験勉強なし。第一希望校合格なし」です。

Q 4 : 最後にお聞きします。「高い志」とは何ですか。

A : (1) ① 自分は何のために第一希望校を受験するのか。

② 第一希望校に進学をして、入学後に何をしたいのか。どのようにその学校での生活を送りたいのか。

③ その学校を卒業して、どのような進路を取りたいのか。

④ 社会に出て、どのような仕事に就きたいのか、どのような社会的活動をしたいのか。

⑤ どのような形で社会や人々のお役に立ちたいのか。

⑥ どのような人生を送りたいのか。

⑦ 自分にとってよく生きるとは何か。

(2) これらのテーマについて、1つでも、2つでも、少しずつでもいいですから、自分の力で真剣に考え、ご自分にとっての「志（こころざし）」をお持ちになることをお勧めいたします。

(3) 同じ「志（こころざし）」でしたら、ご自分にとって「高い志」をお持ちになり、生涯をかけて挑戦なさることを強くご期待いたします。

2017年6月9日(金)7時22分